

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm>

平成25年7月(2013年) No.571

信楽撮影会作品の出来上り具合は如何?

恒例のOMC一泊撮影会、今年は信楽焼の郷で行われ13名の方が参加され、有意義なひとときを過ごされました。今頃は作品の最終まとめに入っておられる方が多いと思いますが、参加された方は全員、作品に仕上げコンテストに出品して下さい。同じ場所、同じ題材を撮影しても、結果的に皆違う作品に出来上るのが面白いところです。こんな纏め方があったのか、ナルホドその手があったのか等々、大変参考になることが多いもので勉強になります。ぜひ出品して下さい。お仕事や他の用事で出席できない方はあらかじめどなたかに作品を預けておいて下さい。

当日は第4研修室ではなく、和室を確保していますので中でゆったりとくつろいで作品を鑑賞しましょう。撮影会に参加されなかった方もぜひ参加して投票して下さい。互選にて最優秀賞、優秀賞、秀作賞、佳作の入賞作品を選び、上位入賞者の作品の中から1本、秋のOMCフェスティバルに出品されます。

OMCフェス・プログラム編成会議は7月31日(水曜日)

平成25年度OMCフェスティバルは10月6日(日曜日)、大阪市立中央会館で行われますが、そのプログラム編成を7月31日(水)13時より第1会議室にて行いますので、幹事の方はご出席下さい。一般作品は原則として7月例会作品までの中より選考してプログラムを編成しますので、出品予定者は7月例会日までに作品を仕上げ持ってきてください。

7月例会とその他のお知らせ

- 7月例会は27日(第4土曜日)18時より、JR難波OCATビル4階難波市民学習センターにて開催します。会場は冷房が効いていますので何か羽織るのをお持ちの方がよいかも知れません。
- 撮影会作品コンテスト：例会日の午後1時より和室にて行います。撮影会に行かなかった方もどうぞお越し頂いて投票して下さい。
- OMCフェスティバルプログラム編成会議：7月31日(水)13時より第1会議室にて開催。幹事の方はご出席下さい。

懐かしの8ミリ映画を楽しむ会

9月16日（月曜振替）に訂正

先月号で9月1日（日曜）と発表していましたが、第1希望の1日が確保できなくて第2希望の16日にOVCの名で予約されていました。ここで間違いを訂正すると共におわび申し上げます。

8ミリ映画を楽しむ会は、今年で2回目。昨年は大阪アマ連会員だけの集まりで第2研修室を使いましたが、今年是一部の一般の方にも案内状を出して100～120名位を予定、難波市民学習センターの講堂を予約しております。かつての8ミリ作品も全国コンに入賞したような作品や、今では貴重な映像もあります。現在の作品とは違った意味で期待される映写会になると思います。

大阪アマチュア映像祭

10月20日と決定

このほど大阪市立図書館との打合わせで、図書館まつり協賛事業として位置づけられた大阪アマチュア映像祭は、10月20日（日曜）13時より開催と決定されました。

この映像祭は大阪アマチュア映像連盟所属9クラブが優秀作品を持ち寄ってプログラム構成したもので、他クラブのいい作品を見られる機会でもあります。1クラブ17分程度の割当てですが、17分に満たない作品を出品されるクラブもあるので、OMCはそれをカバーしており、OMC作品は少し多目の出品が多い傾向にあります。OMC出品作は7月31日の幹事会で決定されます。

6月例会のレポート

6月の例会は22日の午後6時より何時もの例会場で開催しました。司会、上田さん、書記、有村さん、デッキ係に井上さん、河合さん、江村さん、受付兼照明係を華岡さん、紙本さん、の担当で進行しました。
◆出席者：有村、井上、江村、上田、岡本、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、高瀬、西村、華岡、前田、宮崎、森口、森下、森田、山本、（敬称略）の21人と作品上映本数12本でした。

◆上映作品（今月の記録と講評担当：有村世話役です）

1) 龍馬 YOSAKOI (BD)

江村一郎 7分00秒

11月15日高知市で開かれた龍馬よさこい祭を取材されました。この日は坂本龍馬が生れて、そして31才で暗殺された日だそうです。いつものように躍動感溢れる見事な映像がテンポ良く描かれています。江村さんでしか撮れないアップ画面が全体を引き締めています。毎回楽しみにしております。

2) 余部は、今 (BD)

前田茂夫 9分58秒

巨大な鉄橋で有名だった余部へ前田さんは平成16年から何十回となく通われたそうです。その鉄橋がコンクリートになり、観光客も鉄道ファンも少なくなって寂しくなったそうです。地元のお婆さんや、その時々景色を交えながら現状を語っておられます。それでもこの4月と5月に2回行かれたようです。一つのテーマを持った作

品作りはこうでなくては、と大変勉強になりました。見事な作品でした。

3) インレー湖とその浮島 (HDV)

森田光春 8分18秒

ミャンマーのほぼ中程の高原地帯にある湖に5月30, 31日とまる1日滞在しました。作者と山本さん、井上さんと私の4人は美しく珍しい風景を思う存分撮影しました。早くもその全部を網羅したのがこの作品です。所々にテロップによる解説が入りますが、泊まった湖上ホテルの所とか、中程で出てくる太陽が朝日なのか、夕日なのか等行った者にしか判らないことが多々ある様に思いました。早速のお披露目お見事でした。

4) 狐狸伝説の城 (BD)

紙本 勝 13分40秒

日本全国の城や城跡を巡って撮影を重ねておられる紙本さん、今回は静岡県の駿府城、三重県の津城、福岡県の小倉城、佐賀県の佐賀城を紹介されています。ただ城を紹介するだけでは面白くないので、それらに伝わる狐狸妖怪伝説を女性の声の職人で語らせておられます。

この作品の本題も「狐狸妖怪伝説の城」となっています。でも可愛らしい狐や猫が登場しますので怖くありません。そこが残念な所ですね。でもこれだけの画面を撮影されてきたご努力には敬服します。

5) 千里の竹あかり (BD)

進藤信男 5分35秒

この催しは毎年秋に吹田市の千里丘陵の竹林で行われているそうです。6年前に撮

影された映像で作品を作られました。真っ暗な夜に明かりは竹の中の光だけです。蝋燭の明かりだそうです。薄い紙がゆらゆらしている所は風が吹き上がっているので電気でしょうね。難しい被写体をさらりとこなされた作品でした。

6) ゴールデンロック (BD)

有村 博 5分37秒

ミャンマーのチャイティヨと言う所に山本さんと井上さんと私の三人で旅行した時の記録です。雨に祟られて美しい映像は撮られませんでした。不安定な岩の上に大きな黄金の岩が乗っていて人が押しても動くのですが、地震でも落ちない不思議な岩です。有名な巡礼地でもあり、観光名所の一つのようなのです。

7) ヴィクトリアの滝 (BD)

華岡 汪 13分45秒

アフリカ、ジンバブエに行かれて北米ナイアガラ、南米イグアスと共に世界三大瀑布と言われる滝を撮影してこられました。端から端までが1.7 kmもある所に沢山の滝が流れています。

壮大な景観が展開します。9月末に行かれたそうですが、お天気が今一つだったのが残念でした。ツアーに参加されてもこれだけ撮影出来ればご満足でしょう。見事な景色を見せて頂きました。

8) 和歌山城 (BD)

渡辺雄史 5分50秒

満開の桜と城はよく合いますね。このお城も戦時中の空襲で焼けてしまって、今あるのは戦後に再建されたものです。長年大阪城の案内をしておられる渡辺さん、さす

がに眼の付け所が違います。古い時代から築かれてきた石垣を語っておられます。野面積み、打ち込み接木、切り込み接木などで、石に刻まれた刻印の解説もありました。こんなお城の見方もあるんだなあーと感心致しました。

9) 談山蹴鞠祭 (BD)

森口吉正 10分30秒

奈良県多武峰の談山神社の祭神は藤原鎌足で、大化改新で中大兄皇子と中臣(後の藤原)鎌足が談合した場所が神社の裏山にあり、それが神社の名前の由来だと語られます。そしてこの二人が出会った最初が蹴鞠会だったという故事に則り毎年春に行われる神事の蹴鞠祭が出てきます。起承転結を考えられた立派な作品でした。

10) インレー湖 (BD)

山本正夢 9分10秒

前述の森田さんの作品と同じ時の映像です。夜明け前の静かな風景から始まり見事な景色が軽快なマンマーの曲に乗って展開されます。こんなカット何時撮ったの? といったのが沢山ありました。私達の部屋のドアを叩いたのに起きなかった、のが最初の風景です。やはり海外旅行に慣れている人の撮影は違いますね。とにかく息をのむような見事な作品でした。

11) 嵐山城址を訪ねて (BD)

高瀬辰雄 13分00秒

あの京都の嵐山にお城があったの? 驚きです。みんな知りませんでした。阪急電車の嵐山駅からハイキングコースを、有名な苔寺の方に行く道から分かれて松尾山へ、

道なき山道を歩いて登って行かれます。山頂には何もありません。少し戻って行き着いた城跡にはわずかな石垣の石があるだけで、具体的に城跡の形跡はあったのでしょうか。ただここから見下ろすと京都の町並みが見事に見えました。一人歩きの体験を通しての見事な作品でした。

12) 新緑のころ (DV)

岡本至弘 11分57秒

「新緑のころ」という季節感のある題名を付けられていますが、内容は和歌山県古座川の溪流であゆを釣っている古老が主役です。テレビでも紹介された地方ではよく知られた93歳のあゆ釣り名人だそうです。その名人とインタビューされていますが、主人公が後向きでしゃべられていて川の音も大きいので、何を言っているのか判りません。やはりインタビューは後向きはよく聞こえないので、どうしてもという場合はテロップを入れるべきでしょう。これは未完成作品であり、何を伝えたいのか、ねらいがはっきりしません。古座川は溪流のきれいな自然の美しさがあふれていますので、タイトルも「古座川の詩」とでもして、四季の美しさを撮り続けて一本の筋を通す纏め方も考えられましょう。折角撮られた題材ですので、これをふくらませる良い作品に仕上がられたら如何ですか。(この岡本作品のみ講評は合原会長)

これで上映を終わり、何時もの様に居酒屋組と喫茶組に別れて2次会を楽しみました。

先月号例会ニュースで乱頁がありました。おわびいたします。